

街道を歩く

中山道：馬籠宿一落合宿

馬籠宿 (妻籠宿より2里)

木曾11宿の最南端、江戸から数え43番目の宿
町並み東西三町三十三間、で江戸側上町に高札場
中町に問屋、本陣、脇本陣、小さな谷を隔てて永昌寺が
ある。京側のはずれ車屋坂に榊形がある。
水利が悪く、風が強いことからしばしば火災に見舞われる。
明治28年、大正4年の大火で江戸時代の民家は
ことごとく失われる。

馬籠は島崎藤村の小説「夜明け前」の舞台として有名である。小説は藤村の父島崎正樹(小説では青山半蔵)の半生を描いた作品。島崎家は代々本陣、問屋、庄屋兼ねを兼ねた家がらであった、父正樹は学問熱心で国学平田派門人、島崎家(小説青山家)の後を継ぐ、時はまさに黒船来航、開国、尊王攘夷、大政奉還など時の流れの中幕藩体制の末端である島崎家も大きくゆれ、家運が傾きつつある中で苦悶、苦闘、奇行の半生をおくった。

落合宿 (馬籠宿より1里5丁)

ここから西へ美濃16宿のはじまり、木曾路に向かう人にとってはながく厳しい道のはじまり。
室町時代、木曾谷においては宿駅があったようだ。
天正2年(1574)木曾氏、武田氏による馬籠峠の改修、東濃侵攻によって宿駅、伝馬制が広がったようだ。
慶長7年(1602)の伝馬制の実施で完成した。
この宿は木曾谷と神坂峠(飯田)を越える分岐をかかえ要衝の地であった。
街並は三町三十五間、以前は町筋の中央には用水が流れていた、街の入口には榊形、常夜燈もみられる。

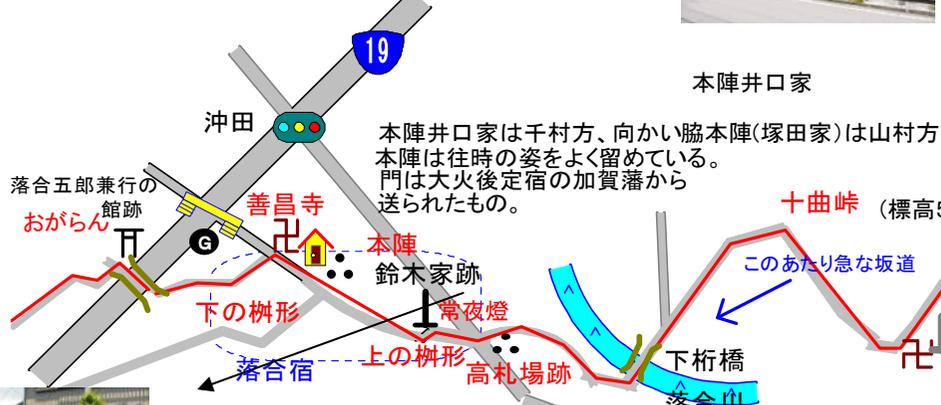
臨済宗妙心派永昌寺夜明け前では万福寺)
藤村の祖 島崎七郎左衛門(監物)が開祖。
永録元年(1558)建立。本尊 阿弥陀如来座像、
本尊脇 円空作 藤村はじめ島崎家の墓がある。



馬籠城 別名 丸山城 本陣 藤村記念館
天正12年(1584)秀吉方木曾義昌が
島崎重通に守らせた。
島崎家の先祖は相州(神奈川県)三浦の人
永正10年(1513)島崎監物重綱が木曾に来て
木曾義在に仕え妻籠に住みその後重通が
永録元年(1558)馬籠に来て砦を構える。



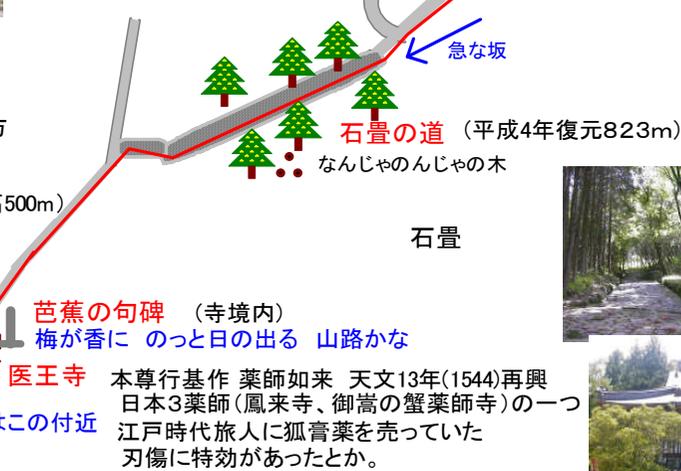
子規句碑
桑の実や 木曾路出ずれば 穂麦かな
芭蕉句碑
送られつ 送りつ果ては 木曾の穂
木曾路の碑 (是より木曾路 藤村筆)



鈴木家は泉屋と呼ばれ酒造業を営んでいた。
"夜明け前"の稲葉屋モデル宿役人。息子勝重は半蔵の弟子。



中山道：馬籠宿、美濃16宿-①



是より木曾路の碑



医王寺 本尊行基作 薬師如来 天文13年(1544)再興
日本3薬師(鳳来寺、御嵩の蟹薬師寺)の一つ
江戸時代旅人に狐膏薬を売っていた
刃傷に特効があったとか。